レッスン：26M

テーマ：自己実現

MAC26/DOC

私の姉妹、兄弟たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私たちは常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

このレッスンでは絶対存在の特質におけるもう一つの質について述べます。それもまた現われの諸世界において表現されます。その質はいわゆる自己実現と呼ばれるものです。

あなたは自己実現をどのように理解していますか？それは、あなた自身についての知識を得ることですか？そうであるなら、どの自己でしょうか？あなた自身についての知識を得る、という言葉をあなたはどのように理解しますか？魂の自己実現、あるいは現在のパーソナリティーによる自己実現への到達、という言葉をあなたはどのように理解しますか？

まず、魂のセルフ・エピグノシスからスタートしましょう。魂のセルフ・エピグノシスは、現在のパーソナリティーを現す前に、そのモナド・セルフの自己実現を現すでしょうか？ノーです。魂のセルフ・エピグノシスはモナド（＊辞書では単子、単体などの意）としてではなく、多様性として自己実現を現し、それが自己実現です。それは全ての魂において同じです。

それは多様性として、全ての魂の自己実現であり、グループの自己実現とも言えます。このグループとしての自己実現は多様性としての全ての魂の自己実現であり、モナド・セルフとしての自己実現ではありません。

実存の世界への微小なスパークとしての魂からの現れは、いわゆるLifeの現象であり、全体、トータリティーとしてのLifeそれ自体ではありません。それはLifeからの微小なスパークであり、それはLifeの現象を活性化させ、現在のパーソナリティーを活性化させます。

さて、自己実現についてはどうでしょうか？Lifeの現象として、その現れは無知の領域の中に入り、このLifeの現象はもはやインナーセルフの特質、その本質としての特質を表現していません。

内側からのスパークは似姿ですが、現在のパーソナリティーとしてのこのLifeの現象はアイコン（＊本物ではない像）です。このLifeの現象は自己実現を現すでしょうか？

セルフ・エピグノシスは一つであっても、Lifeの現象においては、

**意識が無知の中に取り込まれた結果としてこのセルフ・エピグノシスの現れには様々なレベルがあります。**

なぜなら、ロゴス的現れとして私たちは両方の意識を有しているので、私たちは意識の現れであり、同時にセルフ・エピグノシスの現れでもあるのです。

さて、いわゆるautognosia、つまり自己実現についてはどうでしょうか？私たちは自分自身について何を知っているでしょうか？自己実現、autognosiaには様々なレベルがあるのでしょうか？実際にはそのとおりです。今、実際には、と言いましたが、その現実とは人間が無知の領域のなかで理解する現実を意味しています。なぜなら、それは（＊真の）現実ではないからです。私たちには様々なレベルがあります。自分自身が何であるか、と問うそのフォーカスに応じて多くのレベルがあります。毎回、自分自身について何を知っているか、と自らに問い、知っていることを描写するたびに、私たちは自己実現の一つのレベルを現しています。しかし、その自己実現は私たちが本当に現すべき自己の実現ではありません。

現在のパーソナリティーとして私たちは、その能力の完全なる開花を示すような自己実現のレベルを表現する能力があるのでしょうか？もちろん、私たちにはそのような能力があります。

なぜなら、それは現在のパーソナリティーの素質的可能性のサイクル(cycle of capabilities)から私たちに与えられているからです。しかし、

それは現在のパーソナリティーが蓋然的可能性のサイクル(cycle of probabilities)から完全に解放される時初めて表現されるようになります。

その時には現在のパーソナリティーの自己実現は、Lifeの現象としてのみならずLifeそれ自体の一定のレベルに至るまで、現在のパーソナリティーとしての全知識を表現することができます。さらにまた、インナーセルフの特質の多くを現すようになります。

Page2

**現在のパーソナリティーの自己実現は、魂の自己実現と同じでしょうか？答えはノーです。なぜなら、転生のサイクルの中にいる現在のパーソナリティーとして、私たちはLifeの現象としてあるので、たとえ現在のパーソナリティーの諸体をマスターしたとしてもLifeそれ自体を完全に表現することができないからです。たとえ、諸体の形が再形成されても、Lifeの現象として現在のパーソナリティーはLifeそれ自体の諸世界に入ることはできず、その特質を完全に表現することはできません。**

確かに、私たちは知識を有することができ、多くを表現することができ、エピグノシスを有することができます。しかし、生(Life)を経験的に知ることはできないのです。これは転生のサイクルのなかにいる限り達成できず、あるいは表現することは不可能です。

確かに、あなた方は存在の諸世界(worlds of Beingness)に入ったと宣言する人々のことを聞いたことがあるかもしれません。申し訳ないですが、それらはイリュージョンだと言わざるをえません。

そう宣言することは、Lifeそれ自体に対する冒涜とみなすことさえできます。なぜなら、私たちのLifeは私たちが考えるよりはるかに偉大だからです；それは現在のパーソナリティーのもっとも精妙な理解のフィルターをも超えています。

実存の諸世界への下降の目的が完了し、“パーソナリティー”が存在の諸世界、Lifeそれ自体の諸世界に入る時、私たちは何を現すのでしょうか？

私たちはそれらの諸世界でLifeそれ自体となり、もはや現在のパーソナリティーではなくなります。

現在のパーソナリティーとして、例えば“最後の者”として、私たちの魂のセルフ・エピグノシスに何を与えるのでしょうか？なぜなら、私たちは何かを与える必要があるからです。さもなければ、この全てのプロセスは何のためにあるのでしょうか？私たちはその時、何を与えるのでしょうか？もし自己実現を与えるのであれば、それはどの自己実現でしょうか？かつて魂のセルフ・エピグノシスから現された自己実現でしょうか、それとも異なっている…規模(magnitude)ではなく色が異なっている…今の自己実現を与えるのでしょうか？

そうです、私たちは今やモナドの、異なった自己実現を魂のセルフ・エピグノシスに与えるのであり、それは素質的可能性のサイクル内においてです。

魂のセルフ・エピグノシスの素質的可能性のサイクルと言うことができるでしょうか？そうです、それを理解するために、魂のセルフ・エピグノシスのサイクルと言うことができます。本当をいえば、素質的可能性と言うべきではないのです。なぜなら、素質的可能性(capability)という言葉は、魂のセルフ・エピグノシスの表現に限界があることを意味するからです。しかし、限界はありません、そこにあるのですが現れていません。なぜなら、神の黙想というこのプロセスが必要だからです。結果として、私たちにはこれ全ての動き、神の黙想内の動きがあります。

私たちには魂の自己実現がありますが、もちろんそれは実存の諸世界に微小な自己のスパークとなってまだ下降していない他の全ての魂のセルフ・エピグノシスの自己実現とは異なります。自己実現に到達した魂は、実存の諸世界のなかでそれ以上何かをすることができるのでしょうか？自己実現した魂は、この種の現れには到達していない魂のセルフ・エピグノシスからもっと何かを提供することができるのでしょうか？

そうです、この自己実現した魂のセルフ・エピグノシスはもっと与えることができます。

**なぜなら、それは最も低次の現れと同調することができ、人間のもっとも低い現れと同化することができ、あたかもそれ（＊自己実現に到達した魂のセルフ・エピグノシス）が彼ら（＊人間のもっとも低い現れ）であるかのごとく、それら全ての現れを助けることができるのです。これは、このレベルの自己実現に到達する以前には不可能なことです。**

今や自己実現した魂として、テオーシス（＊数多くの転生を経た後に到達する成長の最終段階。神との合一）に入った彼らは、この神の黙想に入らなかったスピリット存在(Spirit Being)以上のことができるのでしょうか？

違いは、その個別性において、自己実現した魂として“まとっている”ものにあるのでしょうか？自己実現した魂として、彼らは知識（繰り返しますが、言葉という知識は今私たちが述べている偉大さを表現するには非常に劣っています）を有しており、いつでも創造における神の黙想の中に入って奉仕することができます。神の黙想における様々なレベルの現れに入り、どのレベルであろうとそのレベルに奉仕することができます。他のスピリットにはこれは生じません。なぜなら、彼らは自己実現していないからです。彼らは絶対存在の多様性のワンネス(oneness)の自己実現を現しますが、この多様性のなかのモナドの自己実現、絶対存在のワンネスの自己実現ではありません。

Page3

従って、

**自己実現した現在のパーソナリティーがあり、**

**自己実現した魂のセルフ・エピグノシスがあり、**

**さらに自己実現したスピリットがあります。**

**これら全ては人間のイデアのロゴス的表現を通じた現れのプロセスのなかにあります。**

それでは、聖霊的現れについてはどうでしょうか？ロゴス的現れと聖霊的現れがあります。私たちにはセルフ・エピグノシスがあり、また意識があります。なぜなら、聖霊的現れは意識の現れだからです。人間は同時にアークエンジェルでもあるのです。いかにして聖霊的現れが意識として表現されるのでしょうか？以前のレッスンで、意識はセルフ・エピグノシスからプログラムされる、と述べました。そうです、聖霊的現れはセルフ・エピグノシスをも現わしますが、しかし、ロゴス的現れのセルフ・エピグノシスではありません。意識は一つであっても、それは様々に表現され、セルフ・エピグノシスの結果として特定の目的に奉仕します。ですから、特定の目的に奉仕するアークエンジェルのオーダーがあり、マイケルがあり、ガブリエルがあり、ラファエルその他があります。それらは特定の目的に奉仕しており、それ以上ではありません。

それでは、それらの現れについてはどうでしょうか？以前のレッスンで、これら全てのアークエンジェルたちは彼ら自身の特質を完全に表現している、と述べました。彼らのブレーシス（＊神の意志）は絶対存在のブレーシスと完全に同じです。彼らは無知の中には入りませんが、神の黙想のなかで奉仕しています。彼らは宇宙を築き、維持することによってこの黙想に奉仕しているのです。

それら様々なアークエンジェルのオーダーは自己実現を現しているのでしょうか？もしそうであるなら、どのようなフォームを取っているのでしょうか？彼らはこの多様性のなかのモナドとしてではなく、多様性として特定のオーダーの自己実現のフォームを表現しています。それゆえ、オーダーによって自己実現の様々なフォームがあります。重要性(magnitude)においては、創造における神の黙想の中の聖なる現れとしては、彼らは他の全てと同じです。

それでは比較として、アークエンジェルである人間はどうでしょうか？これは評価ではなく、たんなる比較という意味です。アークエンジェルは彼らが属する特定のオーダーの自己実現に入ります；一方、人間はアークエンジェルとして自分のアークエンジェル的なヒポスタシス（＊状態）を現すのみならず、多様性のなかでモナドの自己実現をも現します。

私たちはその特定の現れのレベルに到達した後、アークエンジェルの全てのオーダーの自己実現を現すことができます；人間が転生のサイクルにある間にこれは起こりえるのでしょうか？あなたはどう思いますか？完全にではありませんが、かなりの程度までそれは生じます。人間はその進化・成長を通じて、自らの現在のパーソナリティーの表現の諸レベルをマスターし、現在のパーソナリティーの自己実現のレベルに到達した後で、アークエンジェルとして自分のセルフの特質から多くを現すことができるのです。

**質問**：今言われたことは、これまでの歴史ではまだ私たちが体験していない、未来の歴史地図を見せられたような気がします。私はこれについて話す目的、および私たちの現在のリアリティーに及ぼす未来的意味について興味があるのですが。

**K**：そうです。人間が現在のリアリティー（＊現実）とみなしているものは“リアリティー”ではなく、リアリティーの影にすぎません。私たちがやろうとしていることは、このリアリティーの中に踏み込み、影から離れることです。人間はこの影をリアリティーだと考えがちです。このリアリティーのなかにどのようにして入ることができるでしょうか？私たちがエンドスコピシスと呼ぶワークを通じてです。前回のレッスンでエンドスコピシスとは何かについて述べ、真摯な真理の探求者が行うすべてのワークはエンドスコピシスである、と述べました。与えられたこれらの知識全てはエンドスコピシスの助けとなります。探求者が観察と比較を通じて行う自己分析のワークをする時、この知識は基準、物差し、比較のための物差しとして使う必要があります。

Page4

そうです、これら全てを行うためには知識が必要です。しかし、覚えておいてください。私たちはこれらすべてをこれまでのレッスンで話しました。しかし、繰り返しますが、**あなた方が未来の存在とみなすものは既にあなた方の内側に既にあるのです**；これは現在を通じてのワークによって私たちが現そうとしているものですが、しかし、もちろん現在ではリアリティーではありません。

**実存の諸世界にいる間に私たちはリアリティーに到達できるでしょうか？答えはノーです。**私たちはリアリティーのなかに入るのではなく、相対リアリティーにおける様々なステップを昇っているのです。

**私たちは将来リアリティーに入る、あるいは絶対リアリティーに入るのですが、それは私たちがその一部となった時、テオーシス（＊神との合一）においてのみ起こります。**

魂のセルフ・エピグノシスになっても、私たちはその諸世界、絶対リアリティーと呼ばれるステートにはいません。

人間は様々なレベルに入ることができ、それゆえ人間は決して教条的になるべきではありません。私たちは真理の探究者であり、私たちがアプローチできることは相対真理としてのこの真理の様々なレベルです。前進するに伴い、私たちはこの相対リアリティーの様々なレベルを認識し、経験します。それゆえ、私たちは自らを探求者であり同時に教条主義者と呼ぶことはできません。教条主義者であるなら、私たちは真理の探究者ではありません。私たちは全てを知っていると言うことはできません。しかし、誰が全てを知っているのでしょうか？誰も知っていません。

**質問**：それは、多くの様々な伝統においてアポテオシス（＊神格化）とみなされているものとどのように関係しているのですか？アポテオシスとは永遠の目覚めの状態に到達することであり、人はそこに“到達”します。しかし、今その段階をも超えたステージがあるとおっしゃったようですが、そう理解してよいのでしょうか？

**K**：人がフォーカスしている思考・行動の仕方、現在のパーソナリティーとしてその人が自らをどのように理解しているか、その知識によって、様々なレベルの自己実現があります。しかし、それは私たちが求めているものではありません。私たちは現在のパーソナリティーの素質的可能性のサイクルによって能力として与えられる現在のパーソナリティーの自己実現を求めています。そしてまた、自己実現した現在のパーソナリティーがいます。しかし、どのレベルに到達しようとも、それが終点ではありません。例えば、存在の諸世界、Lifeそれ自体の諸世界、魂のセルフ・エピグノシスの諸世界に入る可能性に到達したとしましょう。もし望めば、ブレーシス（＊神の意志）の現れを通じて魂のセルフ・エピグノシスに戻ることができます。しかし、ここに“しかし”があります。なぜなら、もしそれが起これば、それはもはや転生のサイクルには戻れないことを意味し、もはやLifeの現象として実存の諸世界に戻って奉仕することはできません。

**確かに、Lifeの現象としての転生のサイクルのなかではなく、Lifeそれ自体として戻ることはできます。確かに、物質化と非物質化を通じて表現される身体を築くことはできます。ですから、もし人がそれらの諸世界に入れば、魂の自己実現を現すことができますが、それはテオーシスではありません。**

さて、実際には、それらの諸世界で起きていることを詳細に描写することはできません。それを経験的知識の結果として描くことはできません。Lifeの現象としてのいかなる人間も、経験的にそこに到達し、しかも名前をもつ現在のパーソナリティー、Lifeの現象であること、はできません。それらはアーキタイプ（元型）の世界であり、法則・原因の世界であり、イデアの世界です。そこでは、Lifeは最内奥のセルフ、神、絶対存在を完全に現しているのです。

残念なことに、過去の神秘家、そして現在の神秘家でさえも、スーパーサブスタンスの世界である高次ノエティカルの世界に入ることによって、自分たちはそれらの世界に入れると考えています。

なぜなら、スーパーサブスタンスはある程度まで、実存の世界に入っているからです。現在のパーソナリティーがそのレベルに到達すると、現在のパーソナリティーはイリュージョンの中に入るのです。そうです、不定形の世界に入るというイリュージョンであり、形はもはや境界、限界ではなくなります。意識はあらゆる方向に泳ぎ始め、あらゆる方向に広がります。そうです、それらの神秘家のなかには、恐れではなくて不確実性、たよりなさを表現する人さえいます。なぜなら彼らは、全てのなかで自分の“I’ness”（私であること）を失うのではないか、と考えるからです。もちろん、それは違います。

Page5

私たちが話すこれより“上のこと”全ては、経験的知識によるものではありません。それは内側から来るもの、あるいはそのリアリティーを経験している他の人々が描写したものです。それは現在のパーソナリティーとしての私たちのものではありません。確かに、それは私たちのものとみなすことはできます。なぜなら、“全ての人”にとって、大宇宙さえ私たちの内側にあるからです；最大のものは最小のなかにあり、勿論その反対もあります。

**質問**：多くのまじめな人々が“自己実現”に到達したと宣言していますが、私たちはそれをどのように理解したらよいでしょうか？

**K**：もし彼らが、魂のセルフ・エピグノシスの自己実現を現している、と宣言するなら、エレブナには“ノーコメント”はありません。それは彼らの問題です。実存の諸世界において、自己実現した人間が魂のセルフ・エピグノシスの自己実現を表現する、ということはありえません。魂のセルフ・エピグノシスとしての私たちと比べて、現在のパーソナリティーとしての私たちはあまりにも小さいのです。

これらの諸世界では誰も、転生のサイクルのなかにある人間は誰も完全ではありえません。たとえ、完全なポイントに到達しても、そのパーソナリティーが下降して転生のサイクルにとどまる瞬間、まさにその瞬間にそれは不完全の中に入ります。さもなければ、そのパーソナリティーは他の人々に奉仕して助けることはできません。なぜなら、人間はそのような彼あるいは彼女をまったく理解しないからです。

**質問**：現在のパーソナリティーが通過する様々なレベルのセルフ・エピグノシスと自己実現の間には違いがありますか？

**K**：そうです、様々なレベルのセルフ・エピグノシスが特定の状態の自己実現を与え、様々なレベルの超意識のセルフ・エピグノシスもまた様々なレベルの自己実現を与える、と言うことができます。超意識のセルフ・エピグノシスの最高のレベルに到達すると、そのパーソナリティーは素質的可能性のサイクルによってその現在のパーソナリティーに与えられた能力を完全に達成します。それが、現在のパーソナリティーが自己実現に到達するポイントです。

**自己実現への最短距離はハードワーク（＊懸命な努力）によって得られる、ということをパーソナリティーは受け入れる必要があります。**

生憎、パワーと能力を現すための安易な道はありえず、多くの人々はこの安易な道というワナにかかり、結果的に帰還の道をより長いものにしています。

**質問**：自己実現に到達したいと願う人はハードワークを受け入れますが、（＊自己実現に到達するための）助けを与えることができると主張する人の助けを求めようとします。しかし、多くの場合、そのような助けを与えることができると主張する人々は、彼らが教え、話す内容を実際に具現して生きていません。それは助けを与えられるパーソナリティーに影響を及ぼすでしょうか？

**K**：あなたを助けると、マスメディアを通じて述べる人々には注意する必要があります。そうです、その特定のパーソナリティーの意図によってあなたは影響を受けるでしょう。もしその特定のパーソナリティーが優秀な役者なら、役を演ずる背後には意図と動機があります。問題となるのは与えられるものではなく、与えられるものの背後にある動機と意図です；意図と動機がエレメンタルを造り、それが受ける側にも影響を及ぼします。実際、もっとも重要なことは、人が純粋な動機と意図を現すことです。

私たちは常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/MSERIES/26M/DOC//KE3/11 26M/